つむぎMAX

○○市立○○小学校
５年生 13 名＋１人
第 38 号
200 χ年 6 月 15 日
編集　尾形正宏

「サルも人も愛した写真家」の授業

道徳の時間に，NHK の「道徳ドキュメント」という番組を利用して，「人と自然との共存」について考えてもらいました。生憎（あいにく），二人の欠席がありした。授業の様子は，こんな感じです。

1　葛藤という言葉を知っていますか

まずは，葛藤という言葉の意味を教えます。そのあと，「こちらを立てれば，あちらが立たず」のような経験がないか聞いてみました。

・お菓子を買うときに，どっちを買うのか迷った。
・ゲームソフトを買うときに，どっちにするのか迷った。
・「お母さんとお父さんのどっちが好きか」と聞かれたとき，どっちをこたえても，あとの方に申し訳なくて，応えられなかった。むずかしい質問だった。

2　「サルも人も愛した写真家」を見る

ビデオを見た後，簡単にどんな物語だったかをふり返ります。

・下北半島に住む，天然記念物のニホンザルの話
・そのニホンザルに惚れて，移り住むまでになったサルの大好きな写真家の松岡さんが主人公。
・サルがふえすぎて，人家まで降りてきて悪さを繰り返すようになったので村人達は村に対策をお願いする。
・限定して，サルを駆除することを決定。サルの限定のために，村一番サルをよく知っている，松岡さんに協力依頼が来る…

3　あなたならどうする？

さて，サルの大好きな松村さん。サルの駆除に協力してくれとたのまれました。あなたならどうしますか？

・クラスの子どもたちは，サルの駆除に
　協力する… 3 名　　協力しない… 8 名

となりました。それぞれ，松岡さんや村人達，サルの気持ちになりながら，一生懸命意見を言ってくれました。

○協力する

人の生活のため仕方ない，村の人たちがかわいそう，せっかく作った作物を荒らすのだから，何日もかけて作ったんだぞ，農作物ができなくなる，人も愛しているから，食べる物がなくなっていく，協力しなかったら追い出される，ますます被害が増える。

○協力しない

天然記念物だ，ずっとサルの写真をとってきた，名前までつけた，かわいそう，サルを愛しているんだ，サルにとって迷惑だ，自分かってすぎる，人はサルから生まれたんだぞ，これからも写真をとり続けたい，

4　オリに入った「ハナピ」に近づいた松岡さんは，何と言ったかな？

しかけられたオリに入ってきたのは，10 年間もずっと写真をとり続けてきた「ハナピ」というサルでした。いたずらを繰り返していたこのハナピを逃がすわけには生きません。松岡さんは，そのオリに近づき，何かを話しています…。

さようなら

すいません，ごめんな，ごめんな…

かわいそう

ごめんね。悪さをしなければ，おりの中に入らなくてよかったのに…

ごめんね

10 年間ありがとう。しょうがないよ。

ちょっとかわいそうだな。

行かないでほしい

5　感想を書く

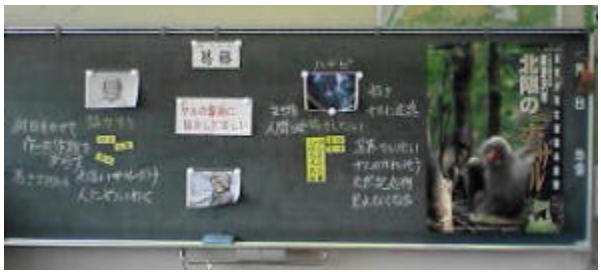
■ 協力する」と判断した人

○サルのことをすごく好きな人があるのはあまり聞いたことはありません。協力するかのところは，ぼくもけっこう考えました。だけど，おなじ人間がいたずらをされていると思って，協力するにしました。サルに名前をつけるほどのすごい人でした。

○悪いことをするサルなら，殺してもいいと思いました。殺さなかったら，ひ害がふえると思うから協力するにしました。

○最後のハナピが，さくに閉じこめられたところが，ぼくはちょっとかわいそうだと思った。ともだちの意見を聞いて勉強になった。

■ 協力しない」と判断した人



○ 13 匹のサルが殺されて，しかたないけどかわいそうだった。ハナピだけでも，入らなければなあと思いました。サルも頭がいいのにひっかかるんだーと思ったし，やっぱり，かわいそうでした。でも協力しなかったら，これからもいっぱいになっちゃうのでしょうがないかなあと思いました。なんで，ハナピのはなにアナがあいているのかなあと思いました。

○松岡さんがサルたちと別れるときが悲しかったと思う。はんだんして「くじょ」といったとき，悲しかった。

○好きだったサルを殺すとは思わなかった。でも村人もかわいそう。

○サルのくじょは受けなくなかったと思うけど，村の人たちをかんがえて「くじょします」をえらんだと思います。ハナピと何年もいっしょにくらしてきたのに，ハナピが死ぬと思うと，なみだがでそうになった。

○なぜ，ハナピが悪さをしたんで殺されるのかなあと思ったりしました。ハナピが悪さをしすぎなのかなあ。

○ハナピがおりでつかまったとき，なんだかかわいそうでした。やっぱり，全めつさせないほうがいいです。

○ころしてしまうのは，かわいそうだと思いました。作物をあらすのはわるいと思った。

○松岡さんは，20 年近くもサルを愛してきたのに，協力したので本当に悩んだと思う。

★

下北のニホンザルの問題はとても難しい問題です。今後どうするのかは，まだ決めていないそうです。いたずらなサルだけを毒殺したとしても，また新しいいたずらサルが出てくるかもしれません。人と自然との共存って，本当に難しいですね。

授業の後，「○○にも似たことがないかな」と聞いてみたら，「ツバメの巣をこわしている人がいた。フンを落とすからいやなんだって」と言っていた人もいました。みなさんの身近にもそういう問題があるかもしれません。また，探してみて下さい。何か見つけたら家庭学習帳（や日記）に書いてきてください。また紹介したいと思います。